

大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生時期と被害

大豆に寄生するジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生密度が急激に増加するのは、7月下旬～8月末頃である。この期間に定期的な調査を行い、多発生が予想される場合は早急に防除する。

1. 本種は体長約2.5mm淡緑色で触角が体長より長く、葉に鮮明な黄色の斑点となる吸汁痕をつくる（図1、2）。ダイズでは下位、中位葉から寄生密度が増加し、次第に上位葉へ拡大する。
2. 多発生地の事例で、中位葉の小葉当たり寄生密度が30～50頭に達すると、薬剤散布を行っても十分な防除効果がみられず落葉する場合（図3、5、6）があったことから、そのような密度に達する前に防除が必要である。（図4）。
3. 寄生密度と寄生葉率の間には、密接な関係が認められ（図7）、小葉当たり寄生密度5頭で寄生葉率約70%、10頭で約85%、20頭でほぼ100%に達する。
4. 本種は、短期間に爆発的に増加するので、7月下旬～8月末頃まで定期的に調査を行い、多発生が予想される場合は早急に防除する。

（活用上の留意点）

- ・寄生密度の調査は、25株の中位葉1枚について葉裏に寄生する虫数を調査する。
- ・本種の大豆への寄生は6月上旬からみられるが、寄生密度が急激に増加するのは7月下旬～8月末頃と考えられるので、発生拡大時期を見逃さないようにする。
- ・薬剤散布にあたっては、葉裏まで薬剤がかかるようていねいに散布する。
- ・薬剤散布後も観察を継続し、再び増加した場合は同様の調査を行って、再散布の可否を判断する。



図1 ジャガイモヒゲナガアブラムシ無翅虫



図2 吸汁痕



図3 早期落葉ほ場

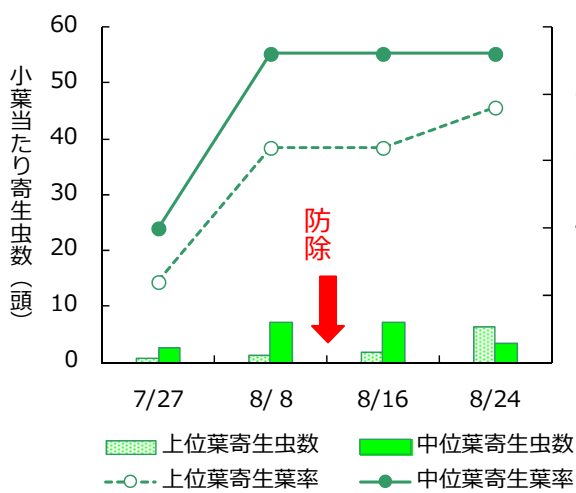


図4 落葉被害がなかった事例

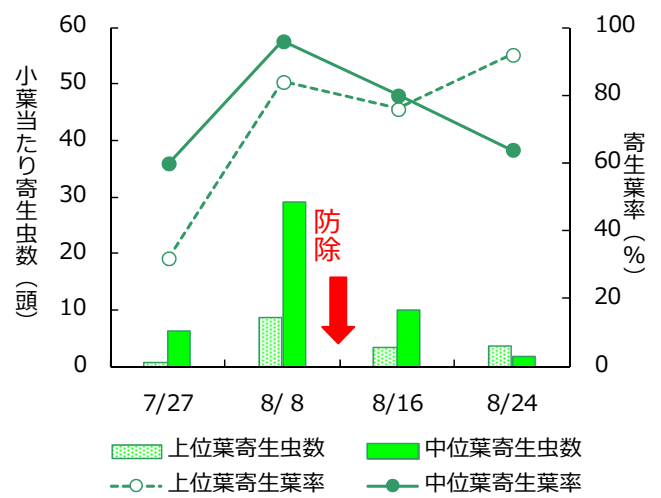


図5 一部落葉被害がみられた事例

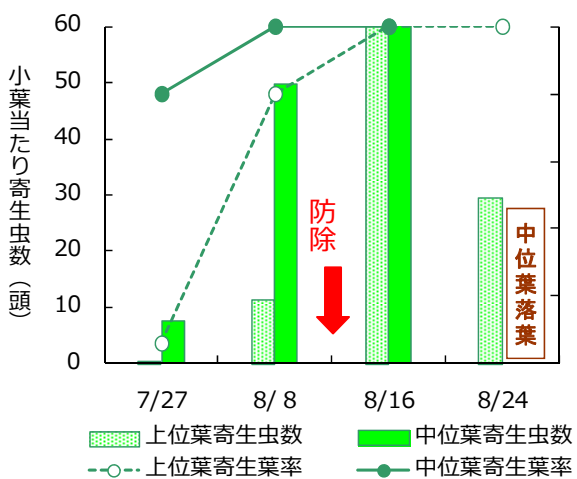


図6 多発生で落葉した事例

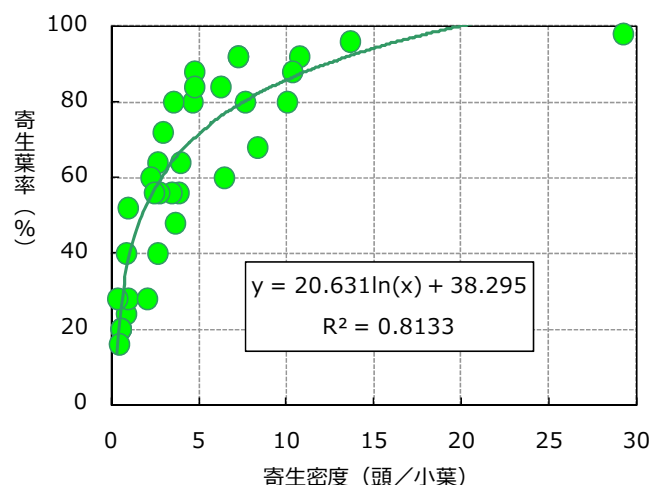


図7 寄生密度と寄生葉率（中位葉）

問い合わせ先 山形県病害虫防除所庄内支所 執筆者：佐藤智浩
TEL：0235-78-3115 e-mail：ybyogaisho@pref.yamagata.jp